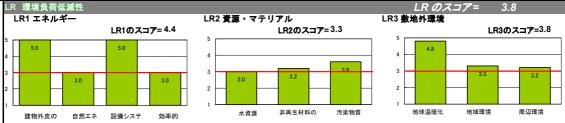
CASBEEあいち

▮評価結果

1-2 外観 ジャペル株式会社本社 増築工事 地上3階 建物名称 階数 愛知県春日井市桃山町三丁目105 番 他34筆 建設地 用途地域 用途地域・指定なし、防火指定・指定なし 平均居住人員 123 人 1,920 時間/年 気候区分 6地域 年間使用時間 建物用途 評価の段階 実施設計段階評価 工場 2026年10月 2024年12月30日 竣工時期 評価の実施日 敷地面積 26,454 m² 小林 弘幸 建築面積 5,022 m² 確認日 2025年2月12日 延床面積 12,301 m² 確認者 水野昭人









各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。 ①地球温暖化への配慮 LR-3 1 地球温暖化への配慮 ②資源の有効活用

Q-3 1 生物環境の保全と創出

中高木の樹冠の水平投影面積+低木・地被等の植栽面積 敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた

屋上緑化面積+壁面緑化面積 建物緑化指数一 建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)



1240151_ジャペル株式会社本社増築工事.xlsx スコア ンASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き ジャペル株式会社本社 増集工事 ■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI スコアシート 実施設計段階

スコアシ	ノート 美施設訂段階	独自基準	建物	全体 共月	建物全体	共用部	居·宿泊部 住居·宿	泊部分	
配慮項		重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数	評価点 評価点	重み 係数	全体
Q 建氢	を物の環境品質					171.30		1水 致入	2.5
Q1 室F						-		-	-
1 音斑				-	-	-		-	-
1	.1 室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-	
1	.2 遮音	1		-	-	-		-	
	1 開口部遮音性能			•	-	-		-	
	2 界壁遮音性能			-	-	-		-	
	3 界床遮音性能(軽量衝擊源)			-	-	-		-	
	4 界床遮音性能(重量衝擊源)			-		-		-	
	.3 吸音				-	-	-	-	
	热環境			•	-	-		-	-
2	2.1 室温制御			-	-	-		-	
	1 室温			3.0	-	-		-	
	2 外皮性能			3.0	-	-		-	
l –	3 ゾーン別制御性			3.0	-	-		-	
	2.2 湿度制御			3.0	-	-		-	
	2.3 空調方式			3.0	-	-		-	
	視環境			٠	-	-		-	-
3	3.1 <u>昼光利用</u>	-		9.0	-	-		-	
	1 昼光率			3.0		-		-	
	2 方位別開口					-		-	
	3 昼光利用設備 3.2 グレア対策			3.0	-	-		-	
3	1 昼光制御			5.0	-			-	
l ⊢,	1.3 照度			3.0	-	-		-	
	3.4 照明制御			3.0	-	_		_	
	N質環境				-	-		-	-
	(1) 発生源対策			-	-	-		_	
"	1 化学污染物質			3.0	-	_		_	
				0.0	-	_		_	
'	1 換気量			3.0	-	_		_	
	2 自然換気性能			3.0	-	_		_	
	3 取り入れ外気への配慮			3.0	_	_	3.0	_	
4	1.3 運用管理			-	-	-		_	
	1 CO ₂ の監視			3.0	-	-		-	
	2 喫煙の制御			3.0	-	-		-	
Q2 サ-	ービス性能				-	0.43	-	-	3.0
1 機能	能性			-	-	-		-	-
1	.1 機能性・使いやすさ				-	-		-	
	1 広さ・収納性			3.0	-	-		-	
	2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-		-	
	3 バリアフリー計画	独自		3.0	-	-	·	-	
1	.2 心理性・快適性			-	-	-		-	
	1 広さ感・景観 (天井高)			3.0	-	-		-	
	2 リフレッシュスペース			3.0	-	-		-	
	3 内装計画			3.0	-	-		-	
1	3 維持管理	-			-	-		-	
	1 維持管理に配慮した設計 2 維持管理用機能の確保			3.0	-	-		-	
2 24 8	2 維持官理用機能の催保 1性・信頼性			0.5	2.9	0.52		-	2.9
	日性・信頼性 2.1 耐震・免震・制震・制振			0.5	3.0	0.52		-	2.9
	1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	3.0	0.80			
	2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20		_	
2	2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	3.0	0.33		_	
_	1 躯体材料の耐用年数			-	3.0	0.23		-	
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	2			3.0	0.23		-	
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09		-	
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08		-	
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15		-	
	6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23		-	
2	2.4 信頼性			0.1	2.7	0.19		-	
	1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.25		-	
	2 給排水・衛生設備			3.0	-	-		-	
	3 電気設備	2		3.0	3.0	0.25		-	
	4 機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.25			

3.0

3.0

0.25 0.25

 4
 機械·配管支持方法

 5
 通信·情報設備

3 1 原本の中心 1 原本の中心 1 日本の中心 1 日本の中心		対応性・更新性			0.4	3.2	0.48			_	3.2
日本語の呼吸・	Ī							-		-	3.2
型の部の呼吸では、					***************************************				-	_	
38 日 20 0 20 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2				[壁長さ比率] <0.1	3.0					_	
30 単位 日本	-									_	
1 回線形での多形性 20 30 0.17 1 1 1 1 1 1 1 1 1										_	
2 応移性の反射性 330 30 077			(2)							_	
3 日本の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の			_		3.0					_	
4 国際経営の万世代										_	
3 日本学校の登録性 33 30 022 - 1 1 会議機能的 30 022 - 1 1 会議機能的 20 032 30 022 - 1 1 会議機能的 20 033 - 2 2 ものから 20 033 - 2 2 ものから 20 030 - 2 2 ものから 20 030 - 2 2 ものから 2 030 - 2 2 ものから 2 030 - 2 2 ものから 2 030 2 0 030										_	
1 中の 中の 中の 中の 中の 中の 中の							-			_	
3 世界の表現を主義的										_	
1 全産環境の保全・創出	Q3					-			-	-	2.1
2 まかなか・養命への配産 3 自身			独自(3)			2.0					2.0
3 地域化・アメニティの配産 (地球の回転										-	2.0
3.1 地域性への配金 投資性の向上 1 連絡性反の 3.0					0.3					-	2.5
2 登場の見限地域の向上 注 接触性の含臭病物等	ľ		独自④			_				-	
日本	-		34 H		-					_	
IR	I R									-	3.8
1 兼称大皮の飲食者物制 PPm077。						_	0.40		-	-	4.4
2 自転之ネルダー利用 30 30 10 010 - 3 3 20 20 010 - 5 3 20 20 20 3 20 20 3 20 20 3 20 20 3 20 20 3 20 20 3 20 20 3 20 20 3 20 20 20 3 20 20 20 3 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20				BPIm=0.77 。	3.0	5.0					5.0
3 日本 1 日本	_										3.0
4 対象的				BEIm=0.00 。						-	5.0
# 会合性を設けの評価					***************************************						3.0
1 モンタリング 30 30 30 30 30 30 30 3	ľ				***************************************			-		-	
# 1 1 年 2										_	
# 会合性 空の呼音									-	_	
4 モニタリング		1								_	
1 日本学生学リアル							_			-	
TRX 養護・マテリアル							_		-	_	
1 大変要保験	I R2					_	0.30		-	-	3.3
1.1 節水		* ***			0.1	3.0				-	3.0
1.2 雨水利用・健静水等の利用 3.0 3.0 1	ľ										0.0
一											
2 海球本等4用システム導入の有無 3.0 3.0 0.33											
2 非再生性質別の使用量削減										_	
2.1 材料使用型の削減 2.3 家体材料におけるリケイクル材の使用 2.3 家体材料におけるリケイクル材の使用 2.4 家体材料におけるリケイクル材の使用 2.5 かはの再料用可能性向上への取組から置いるいと置いる。 3.0 0.21	2	·						-	-	-	3.2
2.2 既存建築級体等の継続使用 2.4 塚柱村和におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な基林から産出された木材 2.6 節材の再利用可能性向上への取組か 3.0 3.0 0.21	ſ					_				-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 3.0 3.0 0.21 - - 2.6 節材の再利用可能性向上への取組み 数色 3.0 4.0 0.25 - - 3 芳教物質含有材料の使用回避 0.2 3.6 0.22 - 3 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 - - - 1 消火剤 1 海球 -<					-		0.25			-	
2.4 駆林対耳以外におけるリナイクルイク使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 節材の再利用可能性向上への取組み 2.6 節材の再利用可能性向上への取組み 2.6 節材の再利用可能性向上への取組み 3.0 3.0 4.0 0.25 - 3.3 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.0 3.0 3.2 - 3.3 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.0 3.0 3.2 - 3.3 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.0 3.0 0.50 - 3.3 7.6 3.0 3.0 3.2 - 3.3 3.0 3.2 - 3.3 3.3			(2)	_						-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材 独自 LGS使用している。 3.0 4.0 0.25				断熱材	3.0					-	
2.8 部材の使用回避					3.0					-	
3 万染物質含言れは利料の使用			独自	LGS使用している。		4.0	0.25			-	
3.1 有害物質を含まない材料の使用	3				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.2 プロン・ハロンの回避					3.0	3.0	0.32			-	
1 消火剤									•	-	
2 発泡剤(断熱材等)									-	-	
Table Ta				発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。		5.0	0.50			-	
Tunk					3.0	3.0	0.50		-	-	
1 地球温暖化への配慮	LR3								-	-	3.8
2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境悪化の改善 3.0 0.50 - 3.0 0.50			1	ライフサイクルCO2排出率53%	-	4.8	0.33			-	4.8
2.2 温熱環境悪化の改善 3.0 0.50 2.3 地域インフラへの負荷抑制 3.0 0.25 1 雨水排水負荷低減 独自 2 汚水処理負荷抑制 3.0 0.25 3 交通負荷抑制 3.0 0.25 4 廃棄物処理負荷抑制 3.0 0.25 3 周辺環境への配慮 0.3 3.2 0.33 3.1 騒音・振動・悪臭の防止 0.4 3.0 0.40 1 騒音 独自 3 悪臭 3.0 1.00 3 悪臭 3.0 0.40 3 日照阻害の抑制 0.4 3.0 0.40 1 風害の抑制 0.4 3.0 0.40 3 日照阻害の抑制 5.0 0.70 3 日照理事の抑制 5.0 0.70	2 :	地域環境への配慮			0.3	3.3	0.33	-		-	3.3
2.2 温熱環境悪化の改善 3.0 0.50		2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない。	-	5.0	0.25			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制 独自 1 雨水排水負荷低減 独自 2 汚水処理負荷抑制 3.0 0.25 3 交通負荷抑制 3.0 0.25 4 廃棄物処理負荷抑制 1.0 0.25 3.1 騒音・振動・悪臭の防止 0.3 3.2 0.33 3 1 騒音・振動・悪臭の防止 0.4 3.0 0.40						3.0	0.50			-	
2 汚水処理負荷抑制 3.0 0.25					0.2	2.5	0.25	-		-	
2 汚水処理負荷抑制 3.0 0.25		1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制 独自 3 周辺環境への配慮 0.3 3.2 0.33 3.1 騒音・振動・悪臭の防止 0.4 3.0 0.40 1 騒音 独自 2 振動 3.0 1.00 3 悪臭		1				3.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制 - 1.0 0.25 3 3 周辺環境への配慮 0.3 3.2 0.33 - 3 3.1 騒音・振動・悪臭の防止 0.4 3.0 0.40			独自		-	3.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮 0.3 3.2 0.33 3 3.1 騒音・振動・悪臭の防止 独自 2 振動 3.0 0.40		4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			-	
1 騒音 独自 2 振動 独自 3 悪臭 3.0 1.00	3 .	周辺環境への配慮			0.3	3.2	0.33		•	-	3.2
2 振動 独自 3 悪臭 3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制 0.4 3.0 0.40 1 風害の抑制 3.0 0.70 2 砂塵の抑制 - 3.0 0.30 3 日照阻害の抑制 - - - 3 北害の抑制 - - - - 1 屋外無明及び屋内無明のうち外に漏れる水への対策 0.2 4.4 0.20 ・ - - - している。 - - -		3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-		-	
3 悪臭 3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制 0.4 3.0 0.40		1 騒音	独自		-	3.0	1.00			-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制 0.4 3.0 0.40 1 風害の抑制 3.0 0.70 2 砂塵の抑制 - 3.0 0.30 3 日照阻害の抑制 - 3.0 0.30 3.3 光害の抑制 - 0.20 4.4 0.20 1 屋外開明及び屋内周明のうち外に漏れる水への対策 光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの全ての配慮事項を満たしている。 - 5.0 0.70		2 振動	独自		-	-	-			-	
1 風害の抑制 3.0 0.70 2 砂塵の抑制 - 3.0 0.30 3 日照阻害の抑制 - 3.0 0.30 3.3 光害の抑制 - 0.20 1 屋外無明及び屋内無明のうち外に漏れる水への対策 光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの全ての配慮事項を満たしている。 - 5.0 0.70		3 悪臭					-			-	
2 砂塵の抑制 - 3.0 0.30 - 3.0 3.3 光害の抑制 0.30		3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40			-	
2 砂塵の抑制 3 日照阻害の抑制 3.0 0.30 - - 3.3 光害の抑制 0.30 - - - - 1 屋外無明及び屋内周明のうちがに漏れる光への対法 光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの全ての配慮事項を満たしている。 5.0 0.70 - -						3.0	0.70			-	
3.3 光害の抑制 光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの全ての配慮事項を満たしている。 1 屋外囲明及び屋内周明のうち外に漏れる光への対策 5.0 0.70		2 砂塵の抑制					-		•		
3.3 光害の抑制 光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの全ての配慮事項を満たしている。 1 屋外囲明及び屋内周明のうち外に漏れる光への対策 5.0 0.70		3 日照阻害の抑制				3.0	0.30			-	
1 屋外屋明及び屋内屋明のうち外に漏れる光への対策 光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの全ての配慮事項を満たしている。 5.0 0.70		3.3 光害の抑制			0.2	4.4	0.20		•	-	
C C C C C C C C C C C C C C C C C C C		1 最外配明なが最内限明のユナルに温かてル、へんか				5.0	0.70				
		産/ F型明及び単四型明切りうかに濡れる尤への対策		している。		5.0	0.70		•	-	
2 歴光の建物外壁による反射光(グレア)への対策 3.0 0.30											

■使用評価マニュアル<mark>CASBEE-遺集(新集)2016年版+あいち原手引き</mark> ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項	目(配慮項目))	評価点 全体に対する 重み係数		重点項目スコア		
1	地球温暖化	対策			4. 8		
	LR3-1	地球温暖化への配慮	4.8	0.10			
2	資源の有効	活用			3. 0		
	Q2-2	耐震性·信頼性	2.9	0.22			
	Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.21			
	LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.19			
3	敷地内の緑	化			2. 0		
	Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:18.9%/建物緑化:0%		
4	地域材の活用		(評価ポイント)		1.0		
	Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし		
	Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし		

■重点項目スコア算出式 各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化 重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用 重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 ジャペル株式会社本社 増築工事

計画上の配慮事項					
総合	主要給排水配管は耐用年数が長い材料を使用している。 ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。				
Q1 室内環境	評価対象外				
Q2 サービス性能	[壁長さ比率] <0.1				
Q3 室外環境(敷地内)	特になし。				
LR1 エネルギー	BPIm=0.77 。 BEIm=0.00 。				
LR2 資源・マテリアル	LGS使用している。				
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率53%				
その他	特になし。				